

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

インスピレーションになろう

BE THE INSPIRATION

R I 会長 バリー・ラシン



2018~2019

楽しい例会・挑戦と感激
Cheerful Meetings, Challenging
and Touching

富津中央RC会長 渡辺 哲夫

国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2551 第15回例会 2018. 10. 18 晴

点 鐘：渡辺哲夫 会長

進 行：栗原典子 SAA

ソング：奉仕の理想

お客様：トルゴド ソロンガ様（米山奨学生）

鈴木荘一 地区米山委員長（君津 RC）

さて、今月のロータリー強化目標は、経済と地域社会の発展月間と米山月間となっております。そこで、本日のお客様として、米山奨学生のソロンガさん(中国・内モンゴル自治区出身)と、同行委員としてお越しの、鈴木荘一様(君津 RC 所属)のお二人です。ソロンガさんには、外部卓話者として、鈴木様には奨学生のご紹介を兼ねてのご挨拶をよろしくお願いいたします。

会長挨拶

渡辺哲夫 会長



皆さんこんにちは。先週開催されましたガバナー公式訪問、並びに4クラブ合同例会に参加されました皆さん、大変ご苦勞様でした。私も今年最初の大きな公式行事である、ガバナー公式訪問が無事終了し、ほっといたしました。さらに、今月は20日(土)には第5グループの情報研修会が、オークラアカデミアで開催され、そして27日(土)・28日(日)には千葉幕張において、第2790地区の地区大会開催と、大きな行事が控えております。地区大会については、後ほど神子幹事より当日の配車等の説明がありますので、改めて皆さんのご協力をよろしくお願い致します。

なお、本日の外部卓話の依頼のいきさつについては、後ほど当クラブ米山担当部長の榎本守男会員にお願いいたします。

ところで、皆さんは積極的に歩いていますか。成人の週一回以上のスポーツ実施率は42.5%で、スポーツ庁では、その率を65%まで引き上げることを目標にしています。スポーツ庁の鈴木大地長官は、昨年「FUN+WALK PROJECT」を提唱しました。これは「楽しく歩く」という意味です。国民医療費が40兆円を越える現在、歩くことにより、医療費を抑制し、健康寿命を延ばすことが期待されています。

また、歩く目的は健康面だけではありません。町中の新しい発見や、さらには、ぼんやり浮かんでいたアイデアが形になることもあります。その他にも、大股で前を向いて颯爽と歩いていると、心が明るく晴れやかになり、絶好の気分転換にもなります。

普段、運動不足を感じていても、時間が取れない人は多いかもしれません。そのような時は、昼休みや休憩時間に散歩するなど、積極的に体を動か

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3

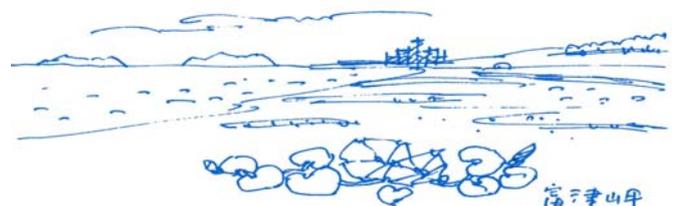
いち川旅館 Ichikawa ryokan

841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,

Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178

URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>

Mail home@futtsuchuo-rotary.org



しましょう。心身共にリフレッシュしてみたいかが
でしょうか

幹事報告

神子勝美



①地区大会参加者の配車の件

開催日時：2018年10月28日（日）

開催時間：受付8時30分 点鐘9時30分

開催場所：ホテルニューオータニ幕張

※参加車両乗り合わせの上、出席をお願いします。

② 木更津 RC 例会変更・・・回覧

③ 週報回覧・上総 RC、袖ヶ浦 RC、木更津 RC

米山奨学生卓話について

米山担当部長 榎本守男



皆さんこんにちは。地区米山奨学委員の鈴木様には、米山奨学生、蘇さんの卓話に同行いただき有難うございます。蘇さん、卓話よろしくお願ひします。

過日、米山奨学会セミナーに出席しました。奨学生卓話担当の佐藤委員（大網クラブ）から「米山奨学生に卓話の機会を是非与えてください」との要望があり、10月の米山月間の今日、

お願ひをしました。富津中央は過去に世話クラブ・カウンセラーとして5人の米山奨学生をおあずかりした実績があります。みんな素晴らしい奨学生達でした。会員の皆様は、今月が米山月間ですので奨学生の支援にご理解いただき特別寄付をお願いします。

富津中央は1018年6月18日で普通寄付・特別寄付の合計が1000万円に到達しました。

今度の地区大会において「1000万円達成クラブ」として表彰されます。

以降は、1000万円増額ごとに表彰されます。

よって、本日より、特別次の1000万円に向かって寄付の集金をさせていただきます。

よろしくお願ひします。

2790 地区米山委員会委員長 鈴木荘一様



日頃より富津中央クラブには米山奨学金にご協力頂き誠にありがとう御座います。又当クラブに於かれましては過去奨学生カウンセラーとして多くの学生のお世話も頂き、感謝申し上げます。本日は内モンゴルより留学の米山奨学生ソロンガさんの案内で参りましたのでよろしくお願ひ致します。



私と日本

米山奨学生 ソロンガ・トルゴドさん

(東金ビューRC・千葉大学)



皆さん、こんにちは。本日は貴重な時間をいただき、誠にありがとうございます。

初めての卓話ということで、かなりのプレッシャーと緊張で何についてお話をすれば良いのか、迷いました。結局、私に与えられた時間だから、私が話したいことを話せばいいという結論の中で、留学生活を通して経験したことや思ったこと、そして、米山ロータリー奨学生として感じたことについて、お話をすることに致しました。どうぞよろしくお願いいたします。



1. 自己紹介

私の名前はモンゴル語で「Solonga」と発音します。日本語で「ソロンガ」と申します。虹の意味です。苗字は「トルゴド」で、普段は使っていません。

出身地は内モンゴル自治区のアラシャー盟です。アラシャー盟は内モンゴル自治区の最西端に位置し、「ラクダの故郷」と呼ばれている美しいところです。故郷の名物はやっぱりラクダの乳製品と干し肉です。

今は千葉大学大学院人文社会科学研究科の博

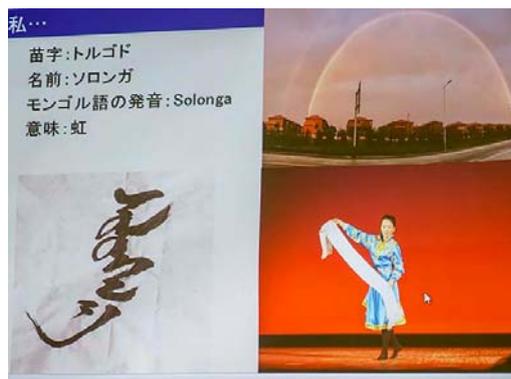
士後期課程に在籍中で、「内モンゴルにおけるラクダの牧畜文化」というテーマで研究しております。米山奨学生になって6ヵ月目で、世話クラブは東金ビュークラブです。

2. 日本文化との出会い

次に、私と日本との出会いについてお話をしたいと思います。それは宿命的な話ではありませんが、何かご縁がつながっていたものもあったと思います。内モンゴルで、多くの学校は中学校から外国語の勉強に入り、ほぼ英語を勉強します。日常生活の中でも日本語ならび日本文化に触れる機会がありません。しかし、我々の学校は少し変わって、学生さんにもっと外の世界と文化を知られるという目的で月に一回講演会を行っていました。講演会では、海外に留学した人および内モンゴル以外の大学に勉強している先輩たちを招いて、彼らの経験談と異文化についてのお話を聞いていました。2016年6月の末、高校を卒業したその直後、学校でいつもの通りに講演会を行いました。講演会でできたのは、日本の大阪大学の博士後期課程で勉強していたウジムという同郷人の先輩でした。講演会で、先輩は日本の自然環境、社会環境、日本の教育システムから日本人の時間を守る、物事を真面目にやるなど性格まで、また自分の日本へ留学した理由、日本に留学して人生が変わったことなどについて本当に私たちを感動させたお話をしました。なんとか講演会で私はウジム先輩とたくさん話したい、日本についてもっと知りたいと思って、たくさん質問しました。その講演会をきっかけに、牧畜社会から外に一切出たことのない私は日本という国に憧れました。日本語にも興味を持つようになりましたが、当時日本語を勉強する環境と日本語をできる人もいなかったため、それは私にとって夢のようなものでした。

2016年8月、全アラシャー盟第三の成績で大学に合格できました。これは、私の家族と学校にとって光栄でした。そして9月、ウジム先輩の推薦と高校の選抜で、私は三人の日本人の民間企業者から奨学金をいただくことになり、大学の四年間の学費をすべて給付することで、本当に多姿多彩な大学

の生活をすごしました。大学の四年間、一年に一回は恩人たちと会い、北京での街歩きと文化体験、内モンゴルでの牧畜生活の体験、モンゴル食文化交流など様々な活動に参加させていただきました。そして、日本の文化についてもたくさん教えて頂きました。その時から、日本に留学したいと決心したのです。振り返ってみると、私が今まで取得した成績と良い生活は、恩人たちの支えがあったからだと思います。この場を借りてもう一度、感謝の気持ちを伝えたいと思います。



3. 日本に来た決め手

2010年に大学を卒業した私は、まずは家庭教師として一年間働きました。目的は二つありました。社会経験を積むことと少しでも貯金して留学時に使おうと思ったのです。二つ目は、家庭教師をする時間帯を巧みに調整し、もっと時間を利用し、日本語を勉強したかったです。当時、私は日本語で文章を読んだり、作文を書いたりしていましたが、日本語で喋ることが一切できませんでした。そして、日本語の塾に通うことにより、日本語で会話できるようになりました。日々がたつことに連れて、日本へ留学する意識がすごく強くなりました。そして、2011年の3月11日の午前中に留学手続きを終えました。しかし、ちょうどその日に、日本で「3.11 大地震」が起きて、津波と地震で大勢の人々が襲われました。ニュースで日本の地震に関する報道を見て、家族の皆さんから日本への留学を反対する声がいっぱい出ました。親戚と友たちから相次いで電話が来て、「日本への留学をやめなさい、地震って本当に怖いですよ」という話ばかりでした。一方で、いつも私のことを尊敬し、賛成する両親は「故郷の神様に良く拜んで、近所の叔母さんに占いをしてもらってから

自分で決めなさい」と言いました。そして、近所の叔母さんに見てもらったら、「すべてが順調です、自分の意志のとおりに行きなさい」と言われました。それで、一安心し、日本への留学を決めたのです。2011年7月12日に初めて日本の国土に立ちました。

4. 来日後

初めて日本に来た頃は、すごく苦勞しました。日本語の基礎もあまりに良くなって、簡単な会話すらできませんでした。食習慣も我々モンゴル人とだいぶ異なり、大変だと毎日思っていました。

このように、日本の生活にだんだん慣れてきました。ちょうど1ヵ月後からアルバイトをはじめました。モドンというパン屋で朝の5時から12時までの間、パンを作る仕事でした。最初はうまくいけなくて、50種類以上のパンの名前を覚えるなんて本当に大変でした。そして、一緒に働いていた日本人たちが私にパンの生地を種類ごとに区別することから、一々詳しく教えてくださったおかげで、どんどんうまくなりました。私は皆さんと仕事を終わったら、自分の知っていた限りの日本語でいろいろ歓談していました。日本語は日本語学校だけではなく、このような実際に日本人の方々と日常いっぱい喋ることで上達するのだなと感じました。そして、日本語学校で通いながら、パン屋で働き、慌ただしい毎日を過ごしていました。パン屋の社長さんは白髪の優しいおじさんでした。毎朝、仕事を始まる前、私たち留学生に朝ごはんとしておいしいパンを作ってくれます。また新年の時必ず一回の新年会を行い、留学生は無料で参加し、留学生一人一人にお年玉をくれます。社長さんは私の日本でのおじさんみたいな存在でした。そんなおじさんが2年前、突然倒れていなくなりました。いつもお元気でニコニコしていたおじさんが突然いなくなるなんて、私にとってショックでした。それ以来2年間経った今でも、たまにおじさんが最後に私に「ソロンガちゃん、頑張ってるね」と励ましてくれたその一言を思い出します。このような日々を過ごし、私は多くの日本人の助けと応援で日本の大学院に入りました。



5. 大学院

2年間の日本語学校での勉強を終えた私は2013年に千葉大学大学院に入学しました。私が勉強している専門は文化人類学です。現在、内モンゴル自治区アラシャー盟バダインジン砂漠におけるラクダの牧畜文化について研究しています。

バダインジン砂漠のオアシスとその周縁地帯にラクダ牧畜民とされるモンゴル人が牧畜を営んでいます。この地域ではラクダ、ヤギ、ヒツジ、ウシが飼育されています。家畜と畜産物は牧畜民にとって、食料、交通手段、燃料、現金獲得の手段など多様な用途に利用され、彼らの生活を支える重要な財産です。更に、ラクダがこの荒漠乾燥地帯に最も適合する家畜として重要な役割を果たしています。

しかしながら、急激な市場経済化が進む現在においては、家畜の頭数が急激に減りました。これに伴い、伝統的な牧畜文化も確実に消失しつつあります。それは牧畜文化の変容、ひいては牧畜民のアイデンティティーさえも希薄になっている現状と言えます。今まで内モンゴルではこの地域におけるラクダの牧畜文化について現地調査を行い、それを詳細に記録した研究が行われていないと言えます。

このような社会と研究状況の背景から、私はこの研究に理論と現地調査の両方の知識が必要であると知ったうえで、勇気をもってこのテーマについて研究することを決心しました。本研究では、ラクダの牧畜文化の一つである個体識別に着目し、ラクダの性別、年齢、体毛、コブの形、体つき、焼印、耳印による識別方法を詳細に調べ、その地域の固有文化として考察します。そしてラクダ牧畜民の家畜観を解明します。この研究を通じて、ラクダの個体識別方法とその文化を再構築することが私の研究

目的です。そして、日本文化人類学の優れた理論を用いて、モンゴルの牧畜文化を研究するのは意義が深いことであると思います。

6. ロータリーとの出会い

いつの間にか、皆さんとの付き合いは6ヵ月を経ました。6ヵ月の前、皆さんと会うその時、緊張すぎて、皆様の顔も見ることができず、何かなんだか全くわかりませんでした。しかし、今は皆様の顔を見ながら、言いたいことを言えるようになりました。それは、最初から、皆様が優しく笑顔で声をかけてくださってからです。そして、今まで例会や研修会で様々な報告を聞いて、ロータリーは本当に素晴らしいことをしていると実感しました。また、カウンセラーの荻野さんとも例会所に行く時や帰りの時にいろいろなことについて歓談します。今まで耳にしたことのない言葉や面白い話をいっぱい聞かせてください頂きました。これは、まだ若い私にとって大切なことであり、これからの人生で絶対役に立つと思います。

奨学生になってから私はロータリーの人々を一人一人見ておりました。私が不思議に思ったのは、なぜみんな忙しいのに委員会の仕事を一生懸命にするのか、なぜ自分の時間とお金を削ってまで赤の他人を助けようとするのか、胸の底から知りたい、知りたいという気持ちに駆けられました。奨学生になってからの6ヵ月間で、私は本当に他人のために何かをする、他人を理解することに関心を持つようになりました。他人を理解するうえで、他人のために何かをすることは本当に大事だと思いました。

ロータリー米山記念奨学金は、私にとって、世界観を広げ、ネットワークを強くし、奉仕と平和への責任感を持たせてくれた、大事な存在です。これから、私は永遠なるロータリー米山奨学生として、人と人との間を繋げる、そして交流の場を設けられる人間になるため、頑張っていきたいと思います。ロータリーで出会った皆さんに心から感謝しております。



ニコニコ BOX

渡辺哲夫会長 米山奨学生ソロンガ様。・同地
神子勝美幹事 区委員鈴木荘一様をお迎えし
榎本守男 有意義な卓話に感謝
小野恒靖 同上
山下 厚 同上

会員慶事

*大網庄一郎♥同居中の孫娘に初曾孫男子誕生

本日の例会食事



出席報告

志波 克 出席担当部長

区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	34/30	18	12		60.00%
前回	34/31	19	12		61.29%
前々回	34/28	18	10		64.29%

編集後記

本日の例会卓話をして頂いたソロンガさん、来日6年目とのことですが、とても初めての卓話とは思えない素晴らしい話方、内容、敬語を含む綺麗な日本語の使い方に感心させられたのは、筆者だけでしょうか？普通の日本人のお嬢さんで見紛う程いやそれ以上。

それに引換、自分の内モンゴルに対する知識、認識の無さに恥じ入った次第であります。あの白鵬さんや朝青龍さんの出身地かと、言ってしまう始末に自分ながら情けない。

そこで例の助けを借り調べてみると、正確には中華人民共和国内モンゴル自治区、相撲取りの皆さんはモンゴル人民共和国といい、中国視

点で内と外が着くとか。当事国では南、北と呼び分けているとのこと。内モンゴルの面積は日本の約三倍、人口約2400万人、国土は海拔1000mでほぼ平坦な草原、彼女のお話の通り、放牧民が多いが、希土類(レアアース)や石炭も、そして我々の食べるそばの大半は御当地産だそうです。たいへん勉強になった今日の例会でした。

(K・I)

略称は蒙。モンゴル、漢族が多いが、朝鮮、ダフル、エヴィンギ、オロチョン族等の少数民族もいる。中国北部、辺境に位置する同省の北はモンゴル、ロシアに接している。面積は新疆ウイグル自治区、チベットに次いで広い。同省の地勢はほぼ平坦であり、中国でも屈指の大草原が広がる。そこに暮らすモンゴル族は馬やラクダなどの牧畜を主とした伝統的な生活文化を現在も守っている。ナダムと呼ばれる祭りやモンゴル相撲、「スーホの白い馬」に登場する馬頭琴などがその特色。元の時代に都が同省に置かれ、今もその遺跡が残る。自治区首府はフフホト市、最大都市はウランチャブ市。同自治区の大部分が海拔1000M以上の高原地帯で、温帯大陸性モンスーン気候に属する。夏は40度近くまで上がり、冬は寒いときで-30度まで下がる。主な農産物はそば。

面積：1,183,000km²

人口：23,840,000人 省都：フフホト



ムラサキシキブ